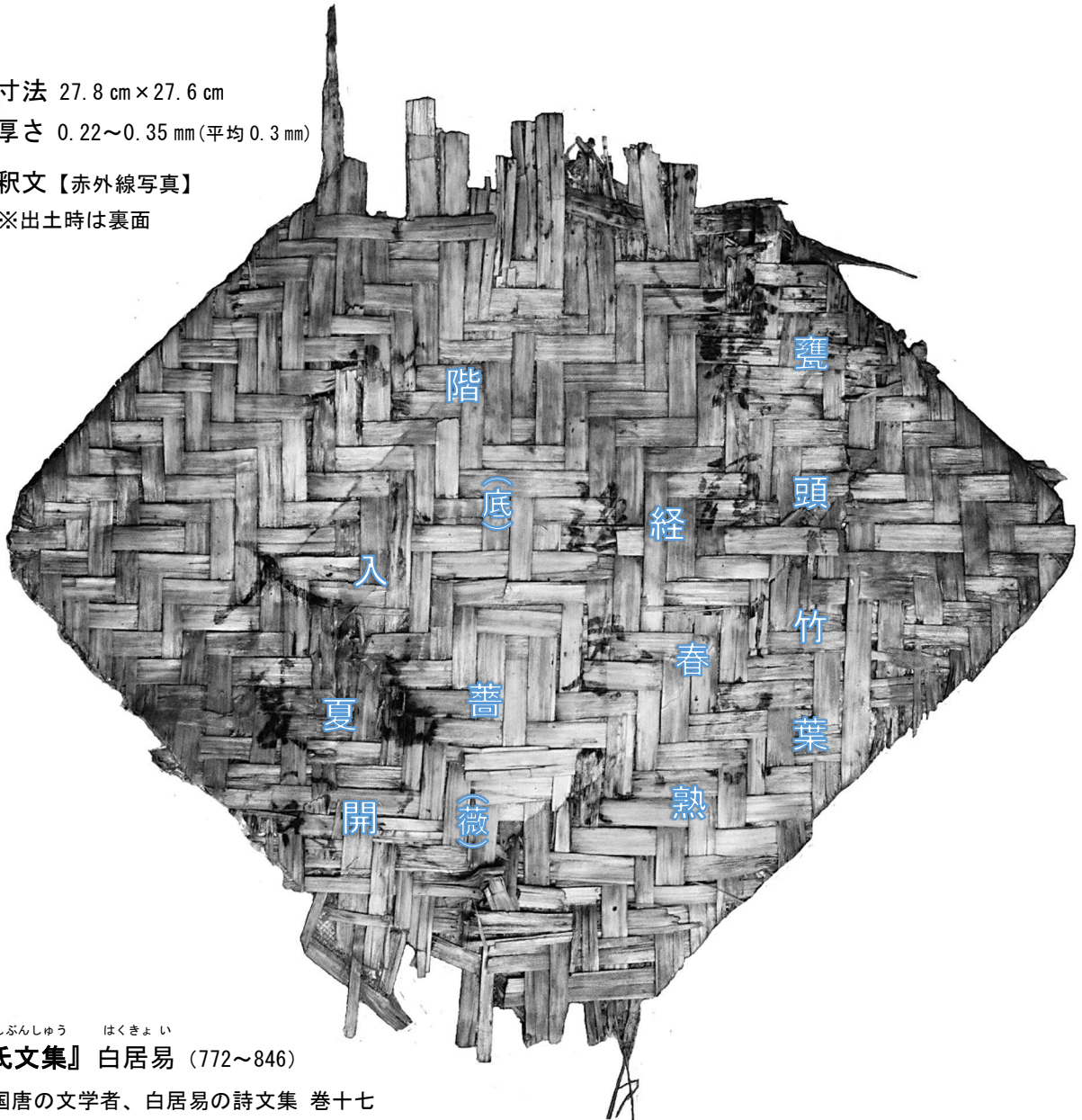


沖塚原東B遺跡出土の網代団扇について

■寸法 27.8 cm × 27.6 cm
厚さ 0.22~0.35 mm (平均 0.3 mm)

■釈文【赤外線写真】
※出土時は裏面



はくしぶんしゅう はくきょい
『白氏文集』白居易 (772~846)

中国唐の文学者、白居易の詩文集 卷十七

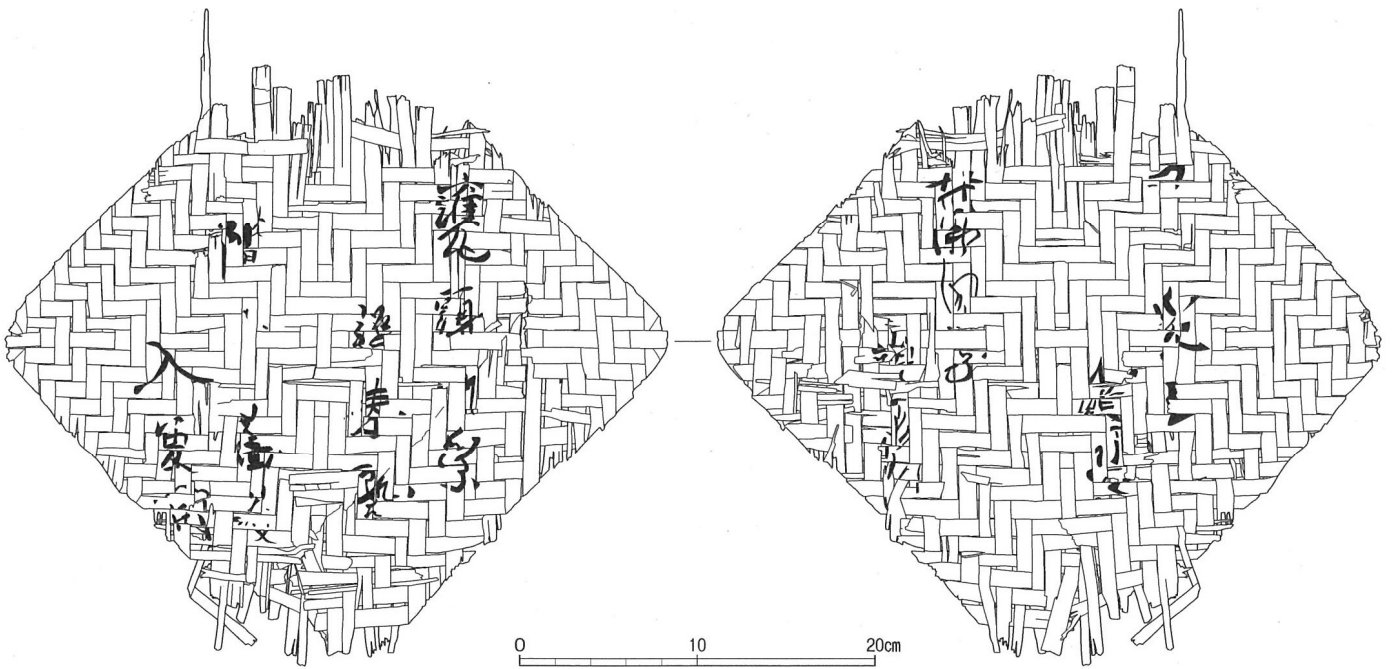
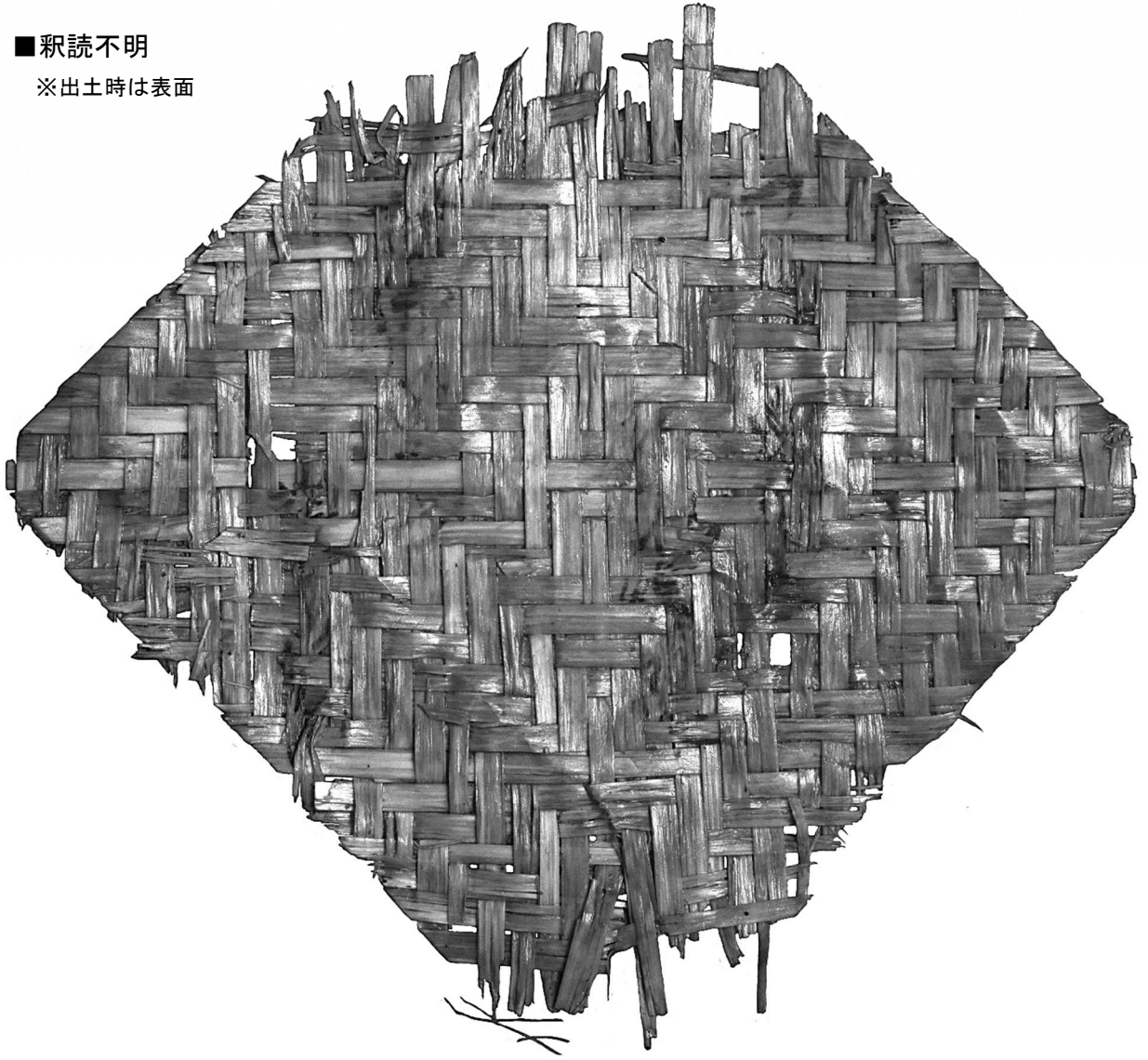
甕頭竹葉經春熟	〔読〕	甕(もたひ)の頭(ほとり)の竹葉(ちくよう) 春を經て熟し
階底薔薇入夏開	〔読〕	階(はし)の底(もと)の薔薇(しょうび) 夏に入りて開く
似火浅深紅圧架		火に似て浅深(せんしん) 紅(こう) 架(か)を押し
如飴気味緑粘台		飴(あめ)の如き気味(きみ) 緑(りょく) 台に粘(ねん)す
試將詩句相招去		試みに 詩句を將(もつ)て相(あい)招去(しょうきよ)せば
儻有風情或可来		儻(も)し風情(ふぜい)有らば 或いは来たる可し
明日早花応更好		明日 早花(そうか) 応(まさ)に更に好(よ)かるべき
心期同醉卯時杯		心に期す 同じく卯時(ぼうじ)の杯(はい)に酔わんことを

〔訳〕 甕のなかの竹葉酒 春を越して熟し
 階のしたの薔薇は 夏になって咲く
 花は火のように紅 濃淡が棚を満ちし
 酒は飴のように緑 風味が台に粘りつく
 試みに詩を作って 招待すれば
 風流を解する人が 来てくれるやも知れぬ
 明日の早朝は もっとよい花が咲くはずだ
 一緒に酔える朝酒を 心から期待している

去年の冬から醸(かも)してきた瓶の酒は、春を越してほどよく熟し、階下の薔薇は、夏が来て咲きだした。
 (薔薇の開花によって客を招いて酒を楽しむ)

■ 釈読不明

※出土時は表面



網代団扇実測図

『北野天神縁起絵巻』に描かれる団扇



※あぐらをかき墨書のある団扇をもつ子供

『北野天神縁起絵巻』 北野天神を題材とした鎌倉時代の絵巻である。詞書序文によれば鎌倉時代の承久年間の製作で、「根本縁起」又は「承久本」と通称される。国宝。紙本著色。八巻。

『信貴山縁起(絵巻)』 平安時代末期の絵巻物。信貴山で修行して当山の中興の祖とされる命蓮に関する説話を描く。『源氏物語絵巻』、『鳥獣戯画』、『伴大納言絵詞』と並ぶ四大絵巻物の一つ。国宝。三巻。

『信貴山縁起』に描かれる網代団扇

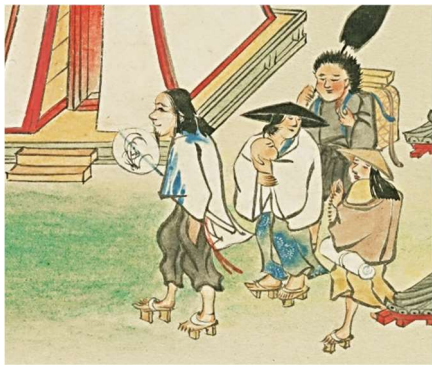


【1巻】



【3巻】

『一遍聖絵』に描かれる団扇



【6巻】



【7巻】



【7巻】



【7巻】



【8巻】



【11巻】

『一遍聖絵又は一遍上人絵伝』 時宗を興した開祖一遍を描いた鎌倉時代の絵巻。奥書により、1299年(正安元年)弟子にあたる聖戒が詞書を起草し、画僧の円伊が絵を描いた。全国を遊行して広く踊念仏を勧め、民衆の布教に努めた一遍の活動を忠実に記録。人物や建物の的確な描写には鎌倉時代の写実主義的な傾向が強く見られる。国宝。

■出土状況写真 井戸(SE11)より出土



対角線上の2つの頂点には「柄」が固定され、使用にともなって破損したものと考えられる。

■遺構全景写真 (4,500 m²)



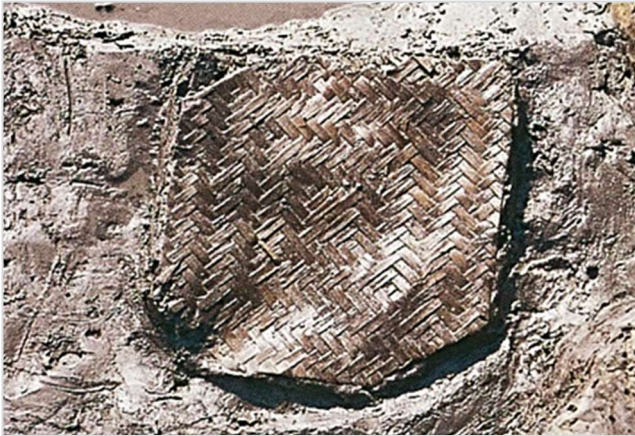
鎌倉時代の網代団扇 出土事例

■ 堅田B遺跡（かたたびいいせき） ※全国で2例目（堅田B遺跡・沖塚原東B遺跡） 樹種：ヒノキかサワラ

金沢市堅田町、平成10年(1998)、井戸跡(SK301)より出土、長377mm—幅355mm—厚2mm、13世紀末「蒲葵扇(ほきせん)」と呼ばれ、経木様の材を3越3潜で編み込んで作っている。柄は残っていない。方形の対角にそって柄を組み込み用いたと見られる。

鎌倉時代の武士の屋敷跡(約1町・約9,917㎡・3,000坪)で、屋敷を区画する溝から巻数板(かんじょういた)と呼ばれる弘長3年(1263)の木簡が出土した。巻数板とは、正月八日に横長の長方形の板に僧侶が般若心経を書き入れ、屋敷の門などに縄をわたして吊り下げたもので、その年の安寧を祈るまじない札である。

参考文献 『堅田B遺跡Ⅰ(遺構編) 2003年』、『堅田B遺跡Ⅱ(本文・遺物編) 2004年』 金沢市埋蔵文化財センター



団扇出土状況



出土遺構：井戸跡 (SK301)



1号巻数板



複製品

